

# 家庭学習の手引き

## 目的を持って家庭での学習に取り組める児童・生徒を目標として

小・中学校の学習内容は、将来児童・生徒が社会人として自立するための基礎となる大切なものです。それぞれの学校では、授業において学習内容の定着や活用が図られるよう日々努力していますが、家庭での学習があって初めて、より確かな定着が図られると思います。また、「ただやればよい」という家庭学習から、児童・生徒自身が、自分の将来を見据え、目的を持って家庭学習に取り組めるようになることを願っています。各学校、クラスから出る「宿題」としての家庭学習だけでなく、自分自身のためになる学習までも最終的にはできる生徒になってほしいと願っています。

今回、長峰中学校区小中連携事業の一環として、共通の家庭学習の手引きを作成することになりました。保護者の皆様には、児童・生徒と一緒にご覧いただきたいと思います。

### 1 家庭学習でめざしたい児童・生徒の姿

- 生活時間の有効な使い方を身につけた児童・生徒  
(テレビやゲームの時間より、勉強や読書、手伝いなどに時間を使える)
- 家庭学習の習慣や方法を身につけた児童・生徒
- 基礎的・基本的な学習内容(教科書にのっている内容)を身につけ、活用しようとする児童・生徒
- 自分の将来のために、必要な学習を自ら行える児童・生徒

じりつ(自立・自律)した児童・生徒

### 2 家庭学習習慣づけのために

#### (1) 家庭学習の習慣(家庭学習のポイント)

- ①時間を決めて、毎日必ず学習を。
- ②勉強するときは、テレビを消して。
- ③中学年以上の子どもは、学習の後の「見直し」まで。

※見直しをすることの意味

学校の授業では、自分だけでなく友達とともに学習します。その学習が本当に自分に身につけているのか確認し、間違いを自分で修正するという習慣を身につけることが子どもの自立につながると考えます。

- ④中学生は、その日の学習内容の復習や、苦手分野の克服まで。

#### ◎小学生のお家の方へ 「声をかけ、手をかけ、目をかけ」ることを大切に

- ・子どもがやりとげられるように声をかけ、はげましてあげてください。
- ・子どもがたずねてきたら、できる範囲でヒントを出すなど答えてあげてください。
- ・子どもが学習している様子に目をかけ、時には目を通してあげてください。

#### ◎中学生のお家の方へ 「気にかけて、見守る」ことを大切に

- ・子どもの家庭での過ごし方を気にかけて、環境を整えてあげてください。
- ・子どもが学習している様子を見守り、子どもに「見てもらっている」という安心感を持たせてください。

## (2) 学年の発達段階による家庭学習に向かう姿

低学年

- ・学校の宿題ができる。
- ・宿題以外にも少しずつ自主的な学習ができる。
- ・お家の方に〇つけをしてもらい、間違いを一緒に直していくことができる。

中学年

- ・学校の宿題が確実にできる。
- ・宿題以外にも自主的な学習ができる。
- ・お家の方に確認してもらいつつ自分で〇つけをし、間違いを直していくことができる。

高学年

- ・自分で計画的に家庭学習に取り組むことができる。
- ・自分で〇つけをし、修正できる。
- ・自分の関心や必要に応じた学習ができる。

中学生

- ・提出ノートを確実にできる。
- ・学校での授業の進度にあわせた復習ができる。
- ・定期テストに向けて計画的に準備ができる。

## (3) 家庭学習の時間の目安（あくまでも最低の目安です。）

低学年（1・2年生）	20分
中学年（3・4年生）	40分
高学年（5・6年生）	60分
中学生（1・2年生）	2時間
中学生（3年生）	3時間

## (4) 家庭学習の方法（漢字・計算ドリルや提出ノートの他にも、こんな学習をしたらどうでしょう）

小学校では・・・

国語

- ・視写 ・聴写 ・言葉の意味調べ ・音読 ・日記 ・テストの見直し
- ・教科書の作品を読んで感想を書く

算数

- ・問題の解説を書く ・生活の中から算数を見つける ・問題を作る
- ・テストの見直し ・予習を試してみる

社会や理科

- ・授業に関係のあることを調べてみる
- ・教科書や資料集などをノートにまとめてみる ・テストの見直し

他にも・・・

- ・図書館から借りてきた本や家にある本で読書してみよう。
- ・新聞などを読んで、疑問や感想をまとめてみる。
- ・国語辞典、図鑑、地図などを身近に置いて、調べてみよう。
- ・自然や生き物、気になる出来事などを観察してみよう。

中学校では・・・

- ・新聞記事の要約 ・ワークブック ・用語の説明